

〈研究論文〉

保育現場の連絡帳における保育者の質問紙調査 —手書きとICT¹の自由記述の分析—

綿 貫 文 野

【要旨】

本研究では、保育現場における連絡帳業務に着目し、手書きとICTツールの連絡帳の活用に対する保育者の意識を調査した。結果、手書きの連絡帳は「感情的つながりを重視」し、「保護者とのコミュニケーションの場」としての役割を果たしていた。また、保護者の文字の状態から心情を読み取ることで、子育て支援に繋がることがわかった。特に手書きの連絡帳は「子どもの成長記録を共有できる」という点が重要視されていた。一方、ICTは効率性や視覚情報の共有、事務負担の軽減に寄与していることが明らかになった。特に、「同一内容を一斉配信できる」「定型文で返信ができる」「保育所保育指針との照らし合わせが可能な機能の活用ができる」「写真の添付」等の利便性が挙げられた。これらから、手書きの絵や文字とICTの活用など、情報共有がしやすい環境を整えることで、双方の信頼関係と連携がより深まる可能性があると考えられる。今後は、両者の利点を活かした環境整備や、ICT導入時のリテラシー教育およびサポート体制の強化が求められる。

キーワード：保育者、保護者、手書きの連絡帳、ICTの連絡帳、子育て支援

1. はじめに

筆者は、先行研究において、保育現場における連絡帳の内容の分析やICTツールの連絡帳を活用した連絡帳の実態について捉えてきた。

保育現場における連絡帳は、一般的に保護者支援の一つとしてその有効性があると捉えられてきた経緯がある。例えば、今井（2008）は連絡帳の意義として、「一人ひとりの子どもの保護者と、子どもの成長を共に喜ぶことのできる『成長記録』…（中略）…一人ひとりの成長を見つめあい、喜び合うもの」と述べている。また、剣持・山内（2005）によれば、保育者と保護者との連携を促すために、「連絡帳は保育者と保護者をつなぐ手段のひとつである。保護者は『家庭の出来事』を多く伝え、保育者は『園での出来事』を多く伝える。それは情報を伝達するためだけにあるのではない。その中でやり取りを通じて、保育者と保護者が信頼関係を築き、連携を深めていくためのツールとして機能しなくてはならない」と考察している。

このことから、連絡帳とは、保育者と保護者の間で、子どもの生活や成長を知る手段として、情報を共有する交換ノートと意味づけることができる。また、保育所と家庭という子どもの生活の場において、連続性や相互性を円滑にするためのものであり、保育者と保護者をつなぐ重要なコミュニケーションツールと言える。これは、柏女（2010）も指摘するとおり、「文書による保育の専門性を生かした保育相談支援」として捉えることができるであろう。

そのように保育現場において重要なツールの一つである連絡帳は、その活用方法においても時代と共に変化してきた経緯もある。特にICT技術の進化にある現在においては、綿貫（2022）が、「ICTツールを活用した連絡帳における研修は、充実すべきである」と指摘しているように、近年では政府の補助金によるICT（情報通信技術）ツールを活用する事例が増加傾向にあり、保育者は連絡帳においてもその活用方法を学ぶ機会を必要としている。具体的には、基本的なPC操作の習得から、園務支援システムの活用方法、情報セキュリティに関する知識、さらには、ICT機器を用いた実践的な内容を盛り込んだICTツールを活用した連絡帳における研修プログラムを開発し、定期的の実施することが有効と考えられる。

保育現場におけるICTツールの活用に関連する先行研究では、中津（2021）のICT導入に関する研究では、「ICTの活用が保育現場であり行われていないので、ICTをうまく活用することでの保育者の業務負担が減ること」を指摘している。また、綿貫（2023）によると保育現場においてICTの活用が進まない背景には、「保育現場で主力となる中堅保育士が受講する『保育士等キャリアアップ研修』等の学習範囲において、保育者を対象としたICTに関する学びが、十分でない現状の影響も窺われる」と述べている。

一方、ICT導入がかえって負担になっているとの指摘（森，2022）もあり、国の取り組みと保育現場の実情には乖離が生じている。このような指摘がありながら、先行研究では、保育現場におけるICTツールを活用している実態やその業務に対する保育者の意識の実態を明確にした研究は少ない。もし、ICTツールの活用による業務負担の軽減があるならば、保育者に時間及び精神的なゆとりを生むため、子どもや保育者との関係構築といった保育の質の向上につながると仮説が立てられる。例えば、ICT化は、単なる事務作業の効率化を目的とするのではなく、保育の質向上に繋がるものであるという認識を、園全体で共有していくことが重要である。さらに、ICT化によって生まれた時間を、子ども一人ひとりと向き合う時間や、職員会議、職員研修、保護者とのコミュニケーションの時間に充てることができるなど、保育現場におけるICTツール活用の意義やメリットを、具体的に示していくことが重要ではないだろうか。

2. 目的

本報告では、保育現場の保育者の業務の中でも、特に時間的負担が多いとされている連絡帳業務に着目し、手書きとICTツールの連絡帳における活用に関して、保育者はどのような意識や行動があるのかの自由記述の分析から、その業務の現状を明らかにし、連絡帳業務のICT

ツールの導入に今後の在り方を検討することを目的とする。

本研究において、連絡帳は保育者と保護者の連携において重要な役割を果たすものであるが、手書きおよびICTを活用した連絡帳に関する保育者の意識調査に基づく研究は未だ少ない現状にある。そのため、連絡帳の重要性にもかかわらず、この分野の質的な先行研究が少ない。また、連絡帳の記述に関する研修が十分に行われていない保育現場も多く、文献やマニュアル、同僚の記述した連絡帳の内容などの指標が存在していても、保育者自らの記述内容に関してその質を捉えながら適切な運用が可能となっているのかを図ることができていない現場も多いと考えられる。このような保育現場の実態については、筆者が保育者として経験してきた実務や、保育所の施設長との研修や懇談の場でも頻繁に指摘されてきたものである。

連絡帳における保育者の記述は、子育て支援の一環として保育者独自の技術や工夫が記述されるものであり、手書きとICTの機能を組み合わせることで、効率を維持しながらも保護者との情緒的なつながりを保つことができるのではないだろうか。金城・安田・中田（2011）による保育者の業務負担に関する調査では、「連絡帳の作成」を3割以上の保育者が、負担に感じているという結果があるように、少なからず連絡帳は業務負担を感じる要因として挙げられている。このことから捉えてみても、手書きとICTの機能を組み合わせた連絡帳の記述は効率的なだけでなく、さらなる保育者の専門性の確立にも寄与する可能性があることが予想される。

守（2020）は、「保護者との信頼関係構築に大きな影響を与えている連絡帳であるが、『指定保育士養成施設の指定及び運営基準について』示される『教科目の教授内容』においても明確な言及はなく、現行の保育者養成カリキュラムにおいて連絡帳を学ぶことを明確に位置づけられている科目は無い。連絡帳のような実践的な方法まで網羅していないのが現状である。実際のところ、具体的な教授内容に関しては各養成施設に委ねられており、また教授する科目担当者の保育実践経験の有無によってもその内容には差異が生ずることが考えられる。」と述べている。このように、保育士養成校では、手書きとICTの連絡帳の両方使用できるようにしていく必要があると考えられる。

以上のことをふまえ、本研究では保育現場における連絡帳業務に着目し、手書きとICTツールの連絡帳の活用に対する保育者の意識を調査することで、手書きとICTの連絡帳の両方使用できるようにしていく必要性を検討していくことを目的としている。

3. 研究方法

3.1 研究協力者

機縁法によって東京都・千葉県内の保育団体を選定し、電話と依頼文書にて調査依頼を行い、本調査に協力の承諾を得た。その後、団体を通じて団体所属する東京都・千葉県内の公立、私立の保育園、幼稚園、幼保連携型認定こども園（以下、園とする）1,470園に勤務する保育者29,400名に依頼した（回収率0.79％）。

選定理由として、日常的に連絡帳に携わっている保育者の認識を収集することで、実態の把握に繋がるとともに、保育者の認識を反映することで、現場に即する専門性の向上と、よりよい連絡帳の活用に期待できると考える。

研究協力者の選定理由としては、保育現場では、0歳児から5歳児までの子どもの家庭状況の把握としている連絡帳を使用しているため、上記の保育者を対象者とした。

3.2 調査期間

2022年12月19日から12月31日

3.3 調査手続き

保育現場における連絡帳の実態とその業務に対する保育者の意識調査に対する調査項目を作成。調査項目については、中津（2021）、橋本（2015）の先行研究を参考に41項目（選択肢27項目及び自由項目14項目）を作成した。

※全体の調査項目のうち、選択肢27項目に関しては量的分析を実施し、東京経営短期大学紀要31「保育現場におけるICTツールを活用した連絡帳の実態に関する研究」にて投稿している。

保育者約29,400名には、本研究の説明書及び質問をGoogleフォームにし、そのURLとQRコードを添付し、メールで送付した。同意を得た保育者のインターネットに接続された媒体から231人の回答があった（回収率0.79%）。そのうち無記入等欠損項目のある5名を除外し、226人の回答を分析対象とした（有効回答数226）。本報告では、手書きとICTのそれぞれを活用している保育者に向けて「連絡帳に関する保育者としての満足度（子どもの成長記録や聞きたいことや知りたいことが情報として伝えられているか）を教えてください。また、そのように思った理由を自由に記述してください」「連絡帳に関する保育者としての効果（目標を達成する上での正確さ、安全性）を教えてください。また、そのように思った理由を自由に記述してください」「連絡帳に関する保育者としての効率（目標を達成する際に費やした資源）を教えてください。また、そのように思った理由を自由に記述してください」という質問をした。その自由記述を対象に質的データ分析ソフトMAXQDA2024を用いて分析を行った。なお、分析は、スーパーバイザー1名と保育者経験をもった保育者養成教員2名の合議によって進め、分析の妥当性を確保した。

3.4 倫理的配慮

白梅学園大学・短期大学「人を対象とする研究」に関する研究倫理審査委員会の承認を経て実施した（承認番号202235、承認日2022.12.17）。

4. 結果

本研究における研究協力者の背景を示すため、東京経営短期大学紀要31「保育現場におけるICTツールを活用した連絡帳の実態に関する研究」に投稿した結果の一部を4.1、4.2、4.3にて示した。本調査の結果は、5で示すこととする。

4.1 回答者の属性

回答者が所属する園の種別は、全体226人のうち、保育所（こども園含む）が144人（63.7%）、幼保連携型認定こども園40人（17.6%）、小規模認定型保育所18人（7.9%）、幼稚園11人（4.8%）、その他13人（5.7%）であった（表1）。

表1 回答者が所属する園の種別

(N=226)

所属する園の種別	保育所 (こども園含む)	幼保連携型認定 こども園	小規模認定型 保育所	幼稚園	その他
回答者数	144人 (63.7%)	40人 (17.6%)	18人 (7.9%)	11人 (4.8%)	13人 (5.7%)

※()内は全体の総数における割合 (%)
(執筆者作成)

保育者の年齢分布は、全体226人のうち、20歳代が77人（34%）と最も多く、次いで30歳代が52人（23%）、40歳代49人（21.6%）、50歳代40人（17.6%）、60歳代以上8人（3.5%）であった（表2）。

表2 保育者の年齢分布

(N=226)

年齢分布	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代以上
回答者数	77人 (34%)	52人 (23%)	49人 (21.6%)	40人 (17.6%)	8人 (3.5%)

※()内は全体の総数における割合 (%)
(執筆者作成)

保育経験年数は、全体226人のうち、3年未満は、55人（24.3%）と10年以上～20年未満が55人（24.3%）と最も多く、次いで、5年以上10年未満が46人（20.3%）、20年以上～30年未満が31人（13.7%）、3年以上5年未満が27人（11.9%）、30年以上が12人（5.3%）であった（表3）。

表3 保育経験年数

(N=226)

保育経験年数	3年未満	10年以上～ 20年未満	5年以上～ 10年未満	20年以上～ 30年未満	3年以上～ 5年未満	30年以上
回答者数	55人 (24.3%)	55人 (24.3%)	46人 (20.3%)	31人 (13.7%)	27人 (11.9%)	12人 (5.3%)

※()内は全体の総数における割合(%)
(執筆者作成)

4.2 園における連絡帳の活用

園における連絡帳の活用の有無は、全体の226人の回答のうち、「活用している」が218人(96.4%)、「活用していない」が6人(2.6%)、「その他」が2人(0%)という結果となった。その連絡帳の記述方法は、「手書きの連絡帳を活用している」が152人(67.2%)と最も多く、一方、「ICTツールの連絡帳を活用している」が67人(29.6%)、「その他」が7人(3%)であった。

4.3 保育者の手書き及びICTツールの連絡帳業務に関する満足度・効果・効率の平均比較

手書きの連絡帳とICTツールの連絡帳における、保育者の記述に関する満足度(使用に対する肯定的な態度)、効果(目標を達成する上での正確さ、安全性)、効率(目標を達成する際に費やした資源)について、橋本(2015)の3つの視点から5件法(1.非常に満足、2.かなり満足、3.やや満足、4.どちらともいえない、5.不満)によって評価した。なお、算出方法については、5段階で、数値の大きいほど満足度が高いことを意味する。その結果、満足度の評定平均値は手書き2.93とICT連絡帳3.04、効果に関する評定平均値は手書き3.47とICT連絡帳3.45、効率に関する評定平均値は手書き2.25とICT連絡帳3.33となった(表4)。

表4 保育者の手書きとICTツールの連絡帳に関する評定平均値の比較(満足度・効果・効率)

	手書き連絡帳	ICT連絡帳
満足度の評定平均値	2.93	3.04
効果に関する評定平均値	3.47	3.45
効率に関する評定平均値	2.25	3.33

(執筆者作成)

5. 自由記述の分析結果

5.1 保育者の手書きの連絡帳における満足度の理由に関する自由記述の分析(表5)

保育者の手書きの連絡帳に関する満足度(子どもの成長記録や聞きたいことや知りたいことが情報として伝えられているか)について、非常に満足から不満までの5件法のうち、非常に満足、かなり満足、やや満足と回答した手書きの連絡帳を活用している約6割程度104人(非常に満足8人、かなり満足39人、やや満足57人)がそのように思った理由の自由記述の内容

について、質的データ分析ソフトMAXQDA2024を用いて属性ごとにコード化し、分析した。分析ソフトから保育者の自由記述の内容を抽出し、意味内容を損ねないように要約しコードとした。コードは、類似性、相違性を明確にして類別し、コードの抽象度を上げ、カテゴリを命名した(表5)。以下、コードを『』、サブカテゴリ〔〕、カテゴリ【】で示す。

保育者の手書きの連絡帳に関する満足度について、そのように思った理由の自由記述の内容については52コード、11サブカテゴリ、9カテゴリに分類された。分類されたコード数の多い順に説明する。手書きの連絡帳における満足度の理由の自由記述は、『その日の様子を手書きで記入することで温かみを感じながら情報を知ることができる』『手書きのやり取りで心を通わすことができる』『相互の気持ちが伝わること』等の〔手書きのやり取りであたたかさが伝わる〕、『保護者とのコミュニケーションの場の一つだと思う』『保護者の方と文字を通してコミュニケーションが取れる』等の〔保育者と保護者の文字を通してのコミュニケーションの場ができる〕、『子どもの成長部分やその日にあった出来事で保護者に伝えたいことを知らせることが出来る』『その日の様子や体調面、成長の様子などを園から伝えることができる』『乳児は生活リズムのことや、発達など丁寧に伝えられている』等の〔子どもの個別の成長記録を伝えることができる〕、『家庭や保育園での様子を共有出来る』『子どもの成長を保護者と共有できて嬉しい』等の〔家庭と保育現場における子どもの成長記録を伝えることができる〕、『日々、ノートを交わすことで家庭の状況を知ることでもできると考えます』『園ではわからない家の様子も聞けて嬉しい』等の〔やりとりから子どもの家庭での様子を知ることができる〕、『字の状態でお互いの心情がわかる時があるため』『文字の状態などからも、保護者の様子、家庭の様子など把握でき、フォローなどにも役立てられる』等の〔保護者の文字の状態から心情を読み取り支援が可能となる〕、『ノートに書く大切な事だけでなく、付箋をつけて伝えたいちょっとしたお願い事などを使い分けて伝えられることがいいと感じる』『連絡帳に書ききれなければ付箋で付け足す』等の〔記述欄に付箋を付け足すことが可能である〕、『言葉で伝えづらい部分には絵を交えて伝えられる』の〔保育者が記述欄に絵で伝えることができる〕、『イラストを書いてくれる保護者もあり、コミュニケーションの話題となる』の〔保護者が記述欄に絵で伝えてくれる〕、『過去の連絡内容をすぐに確認できる』の〔記録の確認がしやすい〕、『保育者側はサポートがしやすく、困っている事に気づくきっかけにもなる』の〔やり取りから保護者の支援が可能となる〕といった11サブカテゴリで構成される。【文字を通してのコミュニケーションができる】(21コード)が最も多かった。その他に、【子どもの成長を伝えることができる】(11コード)、【家庭と保育現場双方における子どもの成長を情報共有できる】(6コード)、【子どもの家庭での様子を知ることができる】(6コード)、【保護者の文字の状態を読み取り、支援へつなげることができる】(2コード)、【記述欄に付箋を付け足すことができる】(2コード)、【絵で伝えることができる】(2コード)、【記録の確認がしやすい】(1コード)、【保護者のサポートがしやすい】(1コード)といった9カテゴリが抽出された(表5)。

表5 手書きの連絡帳における満足度の理由に関する自由記述のカテゴリ

手書きの連絡帳における満足度
(子どもの成長記録や聞きたいことや知りたいことが情報として伝えられているか) の理由
調査対象104人
【カテゴリ9】【サブカテゴリ11】コード52 空欄48人 (抜粋27)
(非常に満足8人 かなり満足39人 やや満足57人)

() 内の数字はコード数

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
文字を通してのコミュニケーションができる	手書きのやり取りであたたかさが伝わる (17)	その日の様子を手書きで記入することで温かみを感じながら情報を知ることができる 手書きのやり取りで心を通わすことができる 手書きは今の世の中あたたかみがある 相互の気持ちが伝わること 直筆だと機械的でないあたたかなやり取りになると思われる
	保育者と保護者の文字を通してのコミュニケーションの場ができる (4)	保護者とのコミュニケーションの場の一つだと思う 保護者の方とのコミュニケーションのひとつになっている 保護者の方と文字を通してコミュニケーションが取れる
子どもの成長を伝えることができる	子どもの個別の成長記録を伝えることができる (11)	子どもの成長部分やその日にあった出来事で保護者に伝えたいことを知らせることが出来る その日の様子や体調面、成長の様子などを園から伝えることができる 子どもの様子を具体的に伝えることができている 乳児は生活リズムのことや、発達など丁寧に伝えられている 成長記録は共有できると思う しっかり記述として残すことが子どもたちの生活記録にもつながると思います
家庭と保育現場双方における子どもの成長を情報共有できる	家庭と保育現場における子どもの成長記録を伝えることができる (6)	家庭や保育園での様子を共有出来る 子どもの成長を保護者と共有できて嬉しい
子どもの家庭での様子を知ることができる	やりとりから子どもの家庭での様子を知ることができる (6)	家庭の様子も知る事ができる 日々、ノートを交わすことで家庭の状況を知ることでもできると考えます 園ではわからない家の様子も聞けて嬉しい
保護者の文字の状態を読み取り、支援へつなげることができる	保護者の文字の状態から心情を読み取り支援が可能となる (2)	字の状態でお互いの心情がわかる時があるため 文字の状態などからも、保護者の様子、家庭の様子など把握でき、フォローなどにも役立てられる
記述欄に付箋を付け足すことができる	記述欄に付箋を付け足すことが可能である (2)	ノートに書く大切な事だけでなく、付箋をつけて伝えたいちょっとしたお願い事などを使い分けて伝えられることがいいと感じる 連絡帳に書ききれなければ付箋で付け足す
絵で伝えることができる	保育者が記述欄に絵で伝えることができる (1)	言葉で伝えづらい部分には絵を交えて伝えられる
	保護者が記述欄に絵で伝えてくれる (1)	イラストを書いてくれる保護者もあり、コミュニケーションの話題となる
記録の確認がしやすい	記録の確認がしやすい (1)	過去の連絡内容をすぐに確認できる
保護者のサポートがしやすい	やり取りから保護者の支援が可能となる (1)	保育者側はサポートがしやすく、困っている事に気づききっかけにもなる

(執筆者作成)

5.2 保育者のICTツールの連絡帳における満足度の理由に関する自由記述の分析（表6）

保育者のICTツールの連絡帳に関する満足度（子どもの成長記録や聞きたいことや知りたいことが情報として伝えられているか）について、5件法のうち、全体の約6割程度67人（非常に満足18人、かなり満足23人、やや満足26人）がそのように思った理由の自由記述については、47コード、12サブカテゴリ、11カテゴリに分類された。分類されたコード数の多い順に説明する。ICTツールの連絡帳における満足度の理由に関する自由記述は、『個別で伝えたい内容が範囲関係なく保護者に伝えることができる』『文章が長く書けるので保育園での様子やお家での様子を細かに知ることができる』等の「子どもの個別の詳細な情報共有ができる」、『保護者とのやりとりが画像なども交えて相互に連絡できる』『写真の添付もできる点。文章だけでは伝えにくいことも写真で補足できる』等の「メディア（画像の共有）の活用ができる」、『時間が短縮される』『誤字脱字チェックが楽』『事務作業の負担の軽減』等の「記述時間の短縮が可能となる」、『項目が決まっているので、入力しやすい』『パソコンで打ち込んでかけることに魅力を感じる』等の「ICTにおける記述欄の入力がしやすい」、『成長記録等一覧になるので見やすい』『過去の連絡帳の内容をすぐに見ることができる』等の「子どもの成長記録を見返すことが可能である」、『一斉入力ができる、手書きよりも早いペースで連絡帳が記入できる』『個別の記述も全体での記述も行える』等の「同一内容を一斉配信できる」、『紙の連絡帳でも同じ項目の記入はあったが、入力しやすく、また見易い』等の「記述欄における閲覧のしやすさ」、『保護者との連携もスムーズに行う事が出来る』『見ている保護者とは共有できることも多い』等の「保護者と連携しやすい」、『職員間や保護者との共有が有効』『全員が個別に読む事が出来る』等の「保育者間や保護者との子どもの個別の情報共有が有効である」、『紙ベースですと、紛失もあります』の「ペーパーレスとして紛失がない」、『保育所指針に従った内容を選択していく式なので自分もより学びが深まる』の「保育所保育指針との照らし合わせが可能な機能の活用ができる」といった12サブカテゴリで構成される。【個別で詳細な内容を情報共有できる】（10コード）が最も多かった。その他に、【画像が共有できる】（8コード）、【記述時間が短縮できる】（8コード）、【入力がしやすい】（6コード）、【記録を見返しやすい】（3コード）、【同一内容を一斉配信できる】（2コード）、【閲覧がしやすい】（2コード）、【保護者と連携しやすい】（2コード）、【保育者間で情報共有ができる】（2コード）、【ペーパーレス化を図れる】（3コード）、【保育所保育指針との照らし合わせが可能な機能の活用ができる】（1コード）といった11カテゴリが抽出された（表6）。

表 6 ICTの連絡帳における満足度の理由に関するカテゴリ

ICTの連絡帳における満足度
(子どもの成長記録や聞きたいことや知りたいことが情報として伝えられているか) の理由
調査対象67人
【カテゴリ 11】【サブカテゴリ 12】コード47 空欄 11人 (抜粋31)
(非常に満足 18人 かなり満足 23人 やや満足 26人)

() 内の数字はコード数

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
個別的で詳細な内容を情報共有できる	子どもの個別の詳細な情報共有ができる (10)	個別で伝えたい内容が範囲関係なく保護者に伝えることが出来る 紙の時よりお互いに情報量が増えた 伝える項目が充実している 文章が長く書けるので保育園での様子やお家での様子を細かに知ることができる 保護者から子どもの情報を詳しく得られる
画像が共有できる	メディア (画像の共有) の活用ができる (8)	写真等も送れるので保育園での様子が分かりやすい 保護者とのやりとりが画像なども交えて相互に連絡できる 写真なども送ることができる、子どもたちの様子を保護者と共有ができる 写真の添付もできる点。文章だけでは伝えにくいことも写真で補足できる
記述時間が短縮できる	記述時間の短縮が可能となる (8)	時間が短縮される 誤字脱字チェックが楽 事務作業の負担の軽減 書き直しなど確認がしやすい
入力がしやすい	ICTにおける記述欄の入力がしやすい (6)	項目が決まっているので、入力しやすい パソコンで打ち込んでかけることに魅力を感じる スマホ 1 台で行えるため
記録を見返ししやすい	子どもの成長記録を見返すことが可能である (3)	成長記録等一覧になるので見やすい 園児の記録を遡りたいときに見返ししやすい 過去の連絡帳の内容をすぐに探すことができる
同一内容を一斉配信できる	同一内容を一斉配信できる (2)	一斉入力ができる、手書きよりも早いペースで連絡帳が記入できる 個別の記述も全体での記述も行える
閲覧がしやすい	記述欄における閲覧のしやすさ (2)	紙の連絡帳でも同じ項目の記入はあったが、入力しやすく、また見易い
保護者と連携しやすい	保護者と連携しやすい (2)	保護者との連携もスムーズに行う事が出来る 見てくれている保護者とは共有できることも多い
保育者間で情報共有ができる	保育者間や保護者との子どもの個別の情報共有が有効である (2)	職員間や保護者との共有が有効 全員が個別に読む事が出来る
ペーパーレス化を図れる	書類の整理などが不要である (2) ペーパーレスとして紛失がない (1)	書類の整理などの必要が無い (2) 紙ベースですと、紛失もあります (1)
保育所保育指針との照らし合わせが可能な機能の活用ができる	保育所保育指針との照らし合わせが可能な機能の活用ができる (1)	保育所指針に従った内容を選択していく式なので自分もより学びが深まる

(執筆者作成)

5.3 保育者の手書きの連絡帳における効果の理由に関する自由記述の分析（表7）

保育者の手書きの連絡帳に関する効果の理由に関する自由記述について、5件法のうち、全体の約9割程度115人（そう思う27人、まあまあそう思う41人、どちらかと言えばそう思う47人）がそのように思った理由の自由記述の内容については57コード、8サブカテゴリ、8カテゴリに分類された。分類されたコード数の多い順に説明する。手書きの連絡帳の効果における理由の自由記述は、『手書きの方が気持ちが伝わる』『乳児の連絡帳は手書きであることで温かみもあるのでは』等の「手書きのやり取りであたたかさが伝わる」、『時間帯的に会えない保護者との共有場所にもなる』『食事の食べた量、食べれたものなど、細かくつたえることができる』『個々の子どもたちの保護者宛に細かく記載することができるので丁寧に伝える』等の「子どもの個別の詳細な情報共有がしやすくなる」、『データではない為、保護者、保育者が無くさない限り安全である』『個人情報漏洩しづらい』『手書き連絡帳は手渡しで渡すから少しは安全性がある』等の「個人情報管理の安全性の確保ができる」、『見返したときに成長や思い出を振り返ることができる』『子どもの日々の生活の記録になる』等の「子どもの個別の成長記録の一覧ができる」、『目標の達成にはつながっているように感じる』の「目標の達成を実感できる」、『問題点を明確にできるから』の「問題点を明確にできる」、『一定の効果は少なからずあると思ったため』『効果はあると思うが、必ずしも手書きである必要は感じないため』等の「効果が実感できる」、『慣れているため』の「慣熟している」といった8サブカテゴリで構成される。【文字を通してコミュニケーションができる】(19コード)が最も多かった。その他に、【情報共有がしやすくなる】(18コード)、【個人情報管理の安全性が確保できる】(9コード)、【成長記録が一覧できる】(6コード)、【目標の達成を実感できる】(1コード)、【問題点を明確にできる】(1コード)、【効果が実感できる】(2コード)、【手書きは慣れているので効果的である】(1コード)といった8カテゴリが抽出された(表7)。

表7 手書きの連絡帳における効果の理由に関する自由記述のカテゴリ

手書きの連絡帳の効果
(目標を達成する上での正確さ、安全性) についての理由
調査対象115人
【カテゴリ8】【サブカテゴリ8】コード57 空欄61 (抜粋26)
(そう思う27人 まあまあそう思う41人 どちらかと言えばそう思う47人)

() 内の数字はコード数

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
文字を通してコミュニケーションができる	手書きのやり取りであたたかさが伝わる (19)	手書きの文字の重要性があると捉えてる
		手書きの方が気持ちが伝わる
		手書きの方が伝えたいことが伝わりやすい気がする
		手書きの良さだったりを伝えられることが出来る
		乳児の連絡帳は手書きであることで温かみもあるのでは保護者様に気持ちが伝わるのはメリットだと思う

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
情報共有がしやすくなる	子どもの個別の詳細な情報共有がしやすくなる (18)	時間帯的に会えない保護者との共有場所にもなる 食事の食べた量、食べれたものなど、細かくつたえることができる 知りたい情報は書いてある 保護者のもとを離れて1日のほとんどを過ごしているので、連絡帳を見て子どもの姿や情報を得ている保護者のが多い 個々の子どもたちの保護者宛に細かく記載することができるので丁寧に伝える
個人情報管理の安全性が確保できる	個人情報管理の安全性が確保できる (9)	データではない為、保護者、保育者が無くさない限り安全である プライバシーが守れる 個人情報漏洩しづらい 手書き連絡帳は手渡しで渡すから少しは安全性がある 連絡帳は保護者はほかの子の連絡帳を見れなくなっているの で安全である
成長記録が一覧できる	子どもの個別の成長記録の一覧ができる (6)	見返したときに成長や思い出を振り返ることができる どの職員も保護者の方々もいつでも読み返したい時に読み返しができる 成長がともに感じられよい 子どもの日々の生活の記録になる
目標の達成を実感できる	目標の達成を実感できる (1)	目標の達成にはつながっているように感じる
問題点を明確にできる	問題点を明確にできる (1)	問題点を明確にできるから
効果が実感できる	効果が実感できる (2)	一定の効果は少なからずあると思ったため 効果はあると思うが、必ずしも手書きである必要は感じないため
手書きは慣れているので効果的である	慣熟している (1)	慣れているため

(執筆者作成)

5.4 保育者のICTツールの連絡帳における効果の理由に関する自由記述の分析(表8)

保育者のICTツールの連絡帳に関する効果の自由記述について、5件法のうち、全体の約8割程度94人(そう思う17人、まあまあそう思う38人、どちらかと言えばそう思う39人)がそのように思った理由の自由記述の内容については52コード、17サブカテゴリ、15カテゴリに分類された。分類されたコード数の多い順に説明する。ICTツールの連絡帳における効果の理由に関する自由記述は、『セキュリティで保護されており書類がバラバラになることがないので、安全性が高いと感じた為』『個人情報もタブレットだけと保護者のスマホに入っているので安全だと思います』等の「個人情報の管理ができる」、『保護者とタイムリーに情報共有できる』『すぐに保護者がみることができお迎え時のやり取りもスムーズと感じます』等の「保護者にとって情報が読み取りやすい」、『業務改善、時間の短縮になる』『書類がバラバラになることがない』等の「事務作業の軽減が可能となる」、『正確さはあると思う』『目標が明確なので良い』『手書き連絡帳より細かな様子を得ることができる』『簡単なコミュニケーションが取りやすいため』等の「明確な情報伝達がしやすくなる」、『利便性がある』『ICT化にしたことで、効率は格段に上がった』等の「利便性がある」、『読み手に情報が伝わりやすい』『アプリを見ることに保護者がなれ、閲覧率がよい』等の「保護者にとって閲覧がしやすい」、『入力す

る時も文字を書くより手軽だと思う』等の「保護者にとって記述がしやすい」、『父母双方の理解が深くなると思う』の「家族間の情報共有ができ、理解が深まる」、『連絡などの記録が残ること』の「記録を保存することができる」、『全員へ同じ内容を連絡したい場合に、便利だと感じます』の「同一内容を一斉配信できる」、『写真の添付など即座にできる所などいいと思う』の「写真の添付ができる」、『配信時間やお休みの家庭にも個別配信できるので、ちょっとした回答もできて良い』の「個別配信ができる」、『誤字をそのままお伝えしてしまうなどのミスがなくなる』の「誤字脱字の訂正ができる」、『分からない漢字をいちいち調べなくて良い』の「漢字を調べずに入力できる」、『使い方によっては職員の力量に差がなくなり保護者にとってはいいかもしれない』の「保育者の力量に差がなくなる」、『字が汚い人は読みやすくなったと言われている』の「字が汚い人は読みやすくなったと言われている」、『個人の目標や、反省などを合わせてみることができる』の「記述から個人の目標や反省等ができる」といった21サブカテゴリで構成される。【セキュリティの管理ができる】(9コード)が最も多かった。その他に、【迅速に情報共有ができる】(8コード)、【事務作業が軽減できる】(7コード)、【情報伝達がしやすくなる】(6コード)、【利便性がある】(5コード)、【保護者が内容を閲覧しやすくなる】(3コード)、【保護者にとって記述がしやすくなる】(2コード)、【家族間で情報共有ができる】(2コード)、【記録を残すことができる】(2コード)、【同一内容を一斉配信できる】(1コード)、【写真の添付ができる】(1コード)、【個別配信ができる】(1コード)、【文字入力がしやすくなる】(2コード)、【保育者の力量に問わずに活用できる】(2コード)、【記述内容から自らの保育目標を捉えたり、反省をしたりすることができる】(1コード)といった15カテゴリが抽出された(表8)。

表8 ICTの連絡帳における効果の理由に関する自由記述のカテゴリ

ICTの連絡帳における効果
(目標を達成する上での正確さ、安全性)についての理由
調査対象94人
【カテゴリ15】【サブカテゴリ17】コード52 空欄42 (抜粋37)
(そう思う17人 まあまあそう思う38人 どちらかと言えばそう思う39人)

() 内の数字はコード数

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
セキュリティの管理ができる	個人情報の管理ができる (9)	セキュリティで保護されており書類がバラバラになることがないので、安全性が高いと感じた為 パスワードがある為個人情報は保護される 安全性がなければ使えないという意識で毎日使用している 安心して使用できる 個人情報もタブレットだけと保護者のスマホに入っている ので安全だと思います 渡し忘れ、間違いがなくなりました

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
迅速に情報共有できる	保護者にとって情報が読み取りやすい (8)	保護者とタイムリーに情報共有できる すぐに保護者がみることができお迎え時のやり取りもスムーズと感じます いつでも見ることが出来る スマホを必ず見る時間がある
事務作業が軽減できる	事務作業の軽減が可能となる (7)	業務改善、時間の短縮になる 手書きですと書類が多くなる保存も大変 職員全員がある程度使いこなせるなら効果がある 書類がバラバラになることがない
情報伝達がしやすくなる	明確な情報伝達がしやすくなる (6)	正確さはあると思う 丁寧に返答ができる 目標が明確なので良い 保護者が出勤途中でも入力ができるため利便性が上がる 手書きの連絡帳より細かな様子を得ることができる 簡単なコミュニケーションが取りやすいため
利便性がある	利便性がある (5)	効果があると思います 利便性がある ICT化したことで、効率は格段に上がった
保護者が内容を閲覧しやすくなる	保護者にとって閲覧がしやすい (3)	読み手に情報が伝わりやすい アプリを見ることに保護者がなれ、閲覧率がよい スマホのアプリでの管理は保護者側からみると、手元に子どもの記録が常にあり便利だと思う
保護者にとって記述がしやすくなる	保護者にとって記述がしやすい (2)	入力する時も文字を書くより手軽だと思う 保護者が出勤途中でも入力ができるため利便性が上がる
家族間で情報共有ができる	家族間の情報共有ができ、理解が深まる (2)	父母双方の理解が深くなると思う
記録を残すことができる	記録を保存することができる (2)	連絡などの記録が残ること
同一内容を一斉配信できる	同一内容を一斉配信できる (1)	全員へ同じ内容を連絡したい場合に、便利だと感じます
写真の添付ができる	写真の添付ができる (1)	写真の添付など即座にできる所などいいと思う
個別配信ができる	個別配信ができる (1)	配信時間やお休みの家庭にも個別配信できるので、ちょっとした回答もできて良い
文字入力がしやすくなる	誤字脱字の訂正ができる (1) 漢字を調べずに入力できる (1)	誤字をそのままお伝えしてしまうなどのミスがなくなる 分らない漢字をいちいち調べなくて良い
保育者の力量に問わずに活用できる	保育者の力量に差がなくなる (1) 字が汚い人は読みやすくなったと言われている (1)	使い方によっては職員の力量に差がなくなり保護者にとってはいいかもしれない 字が汚い人は読みやすくなったと言われている
記述内容から自らの保育目標を捉えたり、反省をしたりすることができる	記述から個人の目標や反省等ができる (1)	個人の目標や、反省などを合わせてみることができる

(執筆者作成)

5.5 保育者の手書きの連絡帳における効率の理由に関する自由記述の分析 (表9)

保育者の手書きの連絡帳に関する効率の理由における自由記述について、5件法のうち、全体の約2.5割程度40人（非常に効率が良い5人、かなり効率が良い14人、やや効率が良い21人）がそのように思った理由の自由記述の内容については23コード、5サブカテゴリ、5カテゴリに分類された。分類されたコード数の多い順に説明する。手書きの連絡帳における効率の

理由における自由記述は、『手書きなので、隙間時間で記入ができる』『複数人で同時に書ける』『効率が良いのかなと思います』等の「記述がしやすい」、『ICTの場合だと苦手な人もいるため効率がわるくなるので手書きの方が今は効率が良いと思う』『ICTツールの連絡帳にすると、限られた職員しか見られなかったり、文章を打てなかったりするので、逆に効率が悪いように思うが、手書きだとその問題がない』等の「ICT技術の活用を苦手としている」、『家庭と共有できる』『連絡帳ひとつでその日の出来事を伝える』等の「文字を通しての家庭との情報共有ができる」、『育児日記にもなる。後から読み返した時に幼い頃どう過ごしていたのかがわかり、宝物になる』『記録として長く保管が出来る』等の「子どもの成長記録を保管することができる」、『すぐにみなおせるから』『見返す際に見返ししやすい』等の「子どもの成長記録の閲覧がしやすい」といった5サブカテゴリで構成される。【記述がしやすい】(7コード)と【ICT技術の活用を苦手としている】(7コード)が最も多かった。その他に、【文字を通しての情報共有ができる】(5コード)、【子どもの成長記録を保存することができる】(2コード)、【成長記録の閲覧がしやすい】(2コード)といった5カテゴリが抽出された(表9)。

表9 手書きの連絡帳における効率の理由の自由記述のカテゴリ

手書きの連絡帳における効率
(目標を達成する際に費やした資源) についての理由
調査対象40人
【カテゴリ5】【サブカテゴリ5】コード23 空欄16 (抜粋16)
(非常に効率が良い5人 かなり効率が良い14人 やや効率が良い21人)

() 内の数字はコード数

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
記述がしやすい	記述がしやすい (7)	手書きなので、隙間時間で記入ができる 複数人で同時に書ける 効率が良いのかなと思います 時間に追われながらも絶対終わらせないといけないと思うし、紙媒体は勤務時間内に終わるし分担になりやすいからいい
ICT技術の活用を苦手としている	ICT技術の活用を苦手としている (7)	ICTの場合だと苦手な人もいるため効率がわるくなるので手書きの方が今は効率が良いと思う ICTツールの連絡帳にすると、限られた職員しか見られなかったり、文章を打てなかったりするので、逆に効率が悪いように思うが、手書きだとその問題がない パソコンなどの入力は慣れるまでに時間がかかる場合があると感じる 時間もかかり、特定の保育士しか書けないため パソコン入力などの場合、一クラスに一台だと、一人しか作業が進まず、逆に効率が悪くなる
文字を通しての情報共有ができる	文字を通しての家庭との情報共有ができる (5)	家庭と共有できる 連絡帳ひとつでその日の出来事を伝える
子どもの成長記録を保存することができる	子どもの成長記録の一覧を保管することができる (2)	育児日記にもなる。後から読み返した時に幼い頃どう過ごしていたのかがわかり、宝物になる 記録として長く保管が出来る
成長記録の閲覧がしやすい	子どもの成長記録の閲覧がしやすい (2)	すぐにみなおせるから 見返す際に見返ししやすい

(執筆者作成)

5.6 保育者のICTツールの連絡帳における効率の理由に関する自由記述の分析（表10）

保育者のICTツールの連絡帳における効率の自由記述について、5件法のうち、全体の約6割程度53人（非常に効率が良い18人、かなり効率が良い23人、やや効率が良い12人）がそのように思った理由の自由記述の内容については25コード、12サブカテゴリ、10カテゴリに分類された。分類されたコード数の多い順に説明する。ICTツールの連絡帳における効率の理由に関する自由記述は、『選択式なので効率が良い』『手書きよりパソコンで行う方が時間はかからないと思う』等の「保育者による記入時間の短縮を実感している」、『各クラス、PC、タブレット、スマホを買ったことにより、同時に記入ができる』の「複数のICT機材による入力ができる」、『保育者も保護者も時短で記入できる』の「保育者と保護者の記入時間の短縮ができる」、『全員へ同じ内容を連絡したい場合に、便利だと感じます』『ある程度分を一斉に送ることができる』等の「同一内容を一斉配信できる」、『タブレットひとつで書いたり、子どもの情報が見れるから』『朝の連絡帳がタブレットで一気に確認できる』等の「記述欄における閲覧がしやすい」、『パソコンだけではなく、スマホでも記入できるため』『コピーなども楽にできるので手書きより断然良い』等の「記述欄の入力がしやすい」、『聞いてない、聞いたなどのトラブルがなく、過去の記録もすぐに確認できる点が良い』の「記録を保存することができる」、『詳しく書ける』の「詳細に情報を伝えることができる」、『ある程度内容は定型文でも返信ができる』の「定型文の入力機能の活用ができる」、『ひとつのアプリに連絡帳、書類、午睡チェック、登降園管理ができるので効率が良い』の「アプリ内の記述以外の機能に効率の良さを感じている」、『書類のファイリングなども負担減』の「書類のファイリングの軽減を感じている」、『午睡中の部屋の暗さの中で電子媒体を使用することで視力が落ちた』の「電子媒体を使用することでの視力の低下が起こる」といった12サブカテゴリで構成される。【記入時間を軽減できる】（8コード）が最も多かった。その他に、【同一内容を一斉配信できる】（3コード）、【閲覧がしやすい】（4コード）、【入力がしやすい】（3コード）、【重要な記録を残すことができる】（2コード）、【詳細な情報を伝達できる】（1コード）、【定型文で返信ができる】（1コード）、【多機能なアプリを活用できる】（1コード）、【ペーパーレス化を図れる】（1コード）、【電子媒体を使用することでの視力の低下】（1コード）といった10カテゴリが抽出された（表10）。

表10 ICTの連絡帳における効率の理由のカテゴリ

ICTツール連絡帳における効率
 (目標を達成する際に費やした資源) についての理由
 調査対象53人
 【カテゴリ10】【サブカテゴリ12】コード25 空欄27 (抜粋26)
 (非常に効率が良い18人 かなり効率が良い23人 やや効率が良い12人)

() 内の数字はコード数

カテゴリ	サブカテゴリ	コード
記入時間を軽減できる	保育者による記入時間の短縮を実感している (6)	選択式なので効率が良い 手書きより断然良い 記入時間など、紙媒体の連絡帳より大幅に軽減されています 手書きよりスピードも速い 手書きよりパソコンで行う方が時間はかからないと思う 手書きよりも圧倒的に速い
	複数のICT機材による入力ができる (1)	各クラス、PC、タブレット、スマホを買ったことにより、同時に記入ができる
	保育者と保護者の記入時間の短縮ができる (1)	保育者も保護者も時短で記入できる
同一内容を一斉配信できる	同一内容を一斉配信できる (3)	全員へ同じ内容を連絡したい場合に、便利だと感じます ある程度の分を一斉に送ることができる 一斉配信なのは良い
閲覧がしやすい	記述欄における閲覧がしやすい (4)	タブレットひとつで書いたり、子どもの情報が見れるから 朝の連絡帳がタブレットで一気に確認できる 見やすくとても良いと感じました
入力がしやすい	記述欄の入力がしやすい (3)	携帯で行える。今のところ見られない、入力する媒体 (PC/携帯) がないという問い合わせはない パソコンだけではなく、スマホでも記入できるため コピペなども楽にできるので手書きより断然良い
重要な記録を残すことができる	記録を保存することができる (2)	聞いてない、聞いたなどのトラブルがなく、過去の記録もすぐに確認できる点が良い
詳細な情報を伝達できる	詳細に情報を伝えることができる (1)	詳しく書ける
定型文で返信ができる	定型文の入力機能の活用ができる (1)	ある程度の内容は定型文でも返信ができる
多機能なアプリを活用できる	アプリ内の記述以外の機能に効率の良さを感じている (1)	ひとつのアプリに連絡帳、書類、午睡チェック、登降園管理ができるので効率が良い
ペーパーレス化を図れる	書類のファイリングの軽減を感じている (1)	書類のファイリングなども負担減
電子媒体を使用することでの視力の低下	電子媒体を使用することでの視力の低下が起こる (1)	午睡中の部屋の暗さの中で電子媒体を使用することで視力が落ちた

(執筆者作成)

6. 考察

6.1 手書き及びICTツールの連絡帳における満足度の理由における自由記述における考察

手書きの連絡帳の満足度の自由記述では、以下、4つの考察を述べる。1つ目は、連絡帳は、保護者との「文字を通じたコミュニケーションの場」として重視されており、手書きによる心情が伝わるという「温かみのあるコミュニケーションの手段」とされていた。2つ目は、個別

の成長記録として、子どもの成長や日々の出来事を詳しく伝えることができる。3つ目は、家庭とのつながりとして、日々のやり取りを通じて家庭の状況を知ることができる。4つ目は、保護者の文字から心情を読み取ることで支援につながる。このことから、最も多かったカテゴリは、文字を通してのコミュニケーションができるという点で、他にも子どもの成長記録や家庭の様子を知ることができる点が挙げられている。

ICTツールの連絡帳の満足度の自由記述では、6つあり、1つ目は、子どもの情報共有の詳細さが挙げられる。個別の情報を細かく保護者に伝えられることで、文章が長く書けるため、子どもの状況を詳細に把握できる。2つ目は、メディア機能の活用である。画像や写真を交えたやり取りが可能で、視覚的に情報を補足できる。3つ目、効率性の実感である。記述の時間が短縮され、事務作業の負担が軽減されるという利点が挙げられた。4つ目、入力の手やすさである。記述する項目が決まっているため、簡単に情報を入力できる。5つ目、一斉入力機能の活用ができ、複数の記録を迅速に入力でき、個別と全体の記述を行うことができることが明らかとなった。6つ目、ペーパーレスの利点から、紛失のリスクが減少することがわかった。最も多かったカテゴリは、詳細な情報共有が可能という点で、その他にも画像共有や記述の効率化が明らかとなった。

手書き連絡帳とICTツールの連絡帳の満足度の分析から、それぞれ異なる利点があることが明らかになった。手書きとICTツールの連絡帳に関する満足度（子どもの成長記録や聞きたいことや知りたいことが情報として伝えられているか）について、理由の回答において、手書きでは、「子どもの成長記録」のコードが強調されて挙げられたが、ICTツールの連絡帳では、抽出されなかった。手書きの連絡帳は感情的なつながりや温かさを重視し、保護者とのコミュニケーションの場としての役割を果たしていた。ICTツールは効率性や視覚的な情報共有が強みであり、保育者の事務作業の負担軽減に繋がった。また、両方に挙げられる点では、成長記録の一覧が可能であり、過去の記録をすぐに確認でき、見返すことができるという利点が挙げられた。

このことから、保育現場では手書きとICTツールの連絡帳を組み合わせることで、効率的でありながらも、保護者との情緒的なつながりを維持することが重要であると考えられる。ICTツールの利便性を活かしつつ、手書きの良さを残すことで、より良いコミュニケーションが実現できると考えられる。

6.2 手書き及びICTツールの連絡帳における効果の自由記述についての考察

保育者の手書きの連絡帳における効果においては、以下、5つの考察を述べる。手書きの連絡帳に関する効果として、1つ目、温かさの伝達として、手書きのやり取りから、気持ちや温かみが伝わる利点が明らかとなった。温かみや感情を伝えるコードが多く、個々の子どもの成長を記録する大切な手段として機能していた。保護者と保育者間のコミュニケーションの質を高める要素が多く、特に乳児の育ちにおいては重要視されると考察された。2つ目、個別の子

どもの情報を丁寧に伝えられるという詳細な情報共有が挙げられた。3つ目、データではなく手渡しされるため、個人情報漏洩のリスクが低いことが挙げられ、セキュリティの安全性を意識していた。4つ目、子どもの成長や思い出を振り返る記録としての役割がある。5つ目、記録を通じて目標の達成を実感することができることが挙げられた。これらから、「文字を通してのコミュニケーション」が最も多く、詳細な情報共有やセキュリティの安全性が明らかとなった。

保育者のICTツールの連絡帳における効果においては、以下、8つの考察を述べる。

ICTツールの連絡帳に関する効果として、1つ目、セキュリティと個人情報管理面では、個人情報安全に管理されており、書類の紛失のリスクが低いと考えられる。2つ目は、迅速な情報共有として、保護者とタイムリーに情報を共有でき、迅速なコミュニケーションが可能ということが明らかになった。3つ目は、書類の整理が不要等、業務の効率化を実感していた。4つ目は、ICTツールの活用により、保護者が情報を簡単に読み取れるようになり、閲覧がしやすくなり、手元に子どもの記録が常にあるということは、安心感に繋がるのではないだろうか。5つ目は、保護者がどこでも柔軟に入力できる利便性により、手書きの連絡帳より細かな様子を得ることができる。6つ目は、全員へ同じ内容を連絡する一斉メールや写真の添付など即座にできる機能は、記述欄における他機能の活用が可能であり、ICTツール活用の付加価値と考えられる。7つ目は、子どもの情報を家族間で共有ができ、父母双方の理解が深くなり、理解が深まるという声が挙がった。8つ目は、乱筆な保育者の記述がICTツールの活用により、閲覧しやすくなったことや、誤字脱字の訂正が容易であり、「活用によっては職員の力量に差がなくなった」と挙げられた。最も多くのコードが「セキュリティの管理」であり、迅速な情報共有や業務効率の実感も重要視されている。

手書きとICTツールの連絡帳における共通した点は、過去の記録を遡り、確認することができるという点であった。保護者と保育者は、子どもの記録が成長の振り返りに役立つことが明らかとなった。これらは、子どもの成長記録としての連絡帳の意義が明確となった。

両者の特徴を活かし、保育現場では手書きとICTツールとの連絡帳を組み合わせることが有効であると考えられる。例えば、ICTツールを用いて迅速な情報共有を行いつつ、手書きの連絡帳で子どもの成長に関する温かみのある感情を伝えることで、保護者との信頼関係をさらに深めることができると考察された。

6.3 手書き及びICTツールの連絡帳における効率の自由記述についての考察

保育者の手書きの連絡帳における効率においては、以下、考察を述べる。手書きの連絡帳の効率として、1つ目、家庭との情報共有のしやすさが挙げられた。2つ目、ICTツールの場合だと苦手な人もいるため効率がわるくなるのではないだろうかという「ICTによるリテラシーの課題」が明らかとなった。3つ目、ICTツールの活用による視力低下の懸念がされていた。このことから、午睡時間の暗い部屋においての使用していることが考えられる。

保育者のICTツールの連絡帳における効率においては、1つ目、特に「記入時間の軽減」を効率について、実感している。2つ目は、機能の活用として、同じ内容を全員に連絡できる「一斉入力」の機能やタブレットやスマホで簡単に情報が確認できる「閲覧の利便性」や「定型文」や「コピー機能」、「入力のしやすさ」が挙げられた。3つ目は、書類のファイリングの軽減など、「ペーパーレス」の実感も挙げられている。

手書き連絡帳とICTツールの連絡帳の両方で、保育者がそれぞれの効率を実感していることがわかった。手書き連絡帳はその温かみや親しみやすさから多く挙げられ、特に保護者とのコミュニケーションや子どもの成長記録としての重要性が強調された。一方、ICTツールの連絡帳は記入時間の短縮や情報共有の迅速さに優れており、特に多忙な保育現場では有用なツールとして位置付けられている。一斉入力機能やスマホ・タブレットによるアクセスの利便性が明らかとなった。また、ICT導入におけるリテラシーの課題や視力への懸念も指摘されており、すべての保育者がICTを使いこなせるわけではないことが示唆されている。

今後は、手書きとICTツールの活用の両方の利点を活かした環境の整備が求められるであろう。特に、ICT導入に際してはリテラシー教育やサポート体制を充実させ、全保育者が効率的に情報を取り扱えるようにすることが重要である。このことは、綿貫（2021）が指摘したICTツールにおける養成校教育や現場における研修の必要性を裏付けるものとなった。

7. 本調査の限界と今後の課題

本研究で得られた回答は、研究手続きであるGoogleフォームを活用した回収方法に関する課題にある。なぜならば、そもそもICT活用に対して苦手意識のある保育者にとって本調査方法での回答は困難であることが想定された。そのようなICT活用に対する苦手意識のある保育者の意見を十分に汲み取れずに本研究の結果が導き出された可能性は高いものであったと考えられる。

次に、手書きの連絡帳を活用しているのは約7割、ICTツールを活用しているのは約3割であった。このため、回答者のそのもののサンプルに偏りがあったため、両方の回答を具体的に比較して検討するまでは至らなかった。

今後の課題として、本研究での限界を踏まえた研究方法の修正からの再検討していきたい。さらに、連絡帳業務に取り組む保育者に対する具体的な業務内容に対する現状の問題や課題、さらには業務改善に向けた方法などを捉えるためのインタビュー調査や、連絡帳を活用して保育者から支援されたり、子育ての連携を図ったりしている保護者への質問紙調査などを行い、保育現場における連絡帳活用の有効性を明らかにしていきたいと考えている。

そして、連絡帳の手書きとICT活用を併用した業務効率という視点においては、連絡帳のICT活用に対する保護者の認識や手書きの連絡帳と比較して保護者にとってメリットやデメリットがあるのかについて明らかにしていきたい。その調査から、保育者がどのような知識・

技術を持ちながら、連絡帳業務を遂行していくべきか。また、保育者の連絡帳の記述に関する知識・技術のあり方を整理し、提案していきたいと考えている。

おわりに

本研究の保育者の質問紙調査の回答から、手書きの連絡帳からは、「子どもの成長記録」「子どもの成長過程」が強調されており、記録として子どもの成長を一緒に共有していることが窺えた。連絡帳の意義として本来の本質的なコードが抽出できた。これは、綿貫（2022）によると、連絡帳とは、「保護者と保育者との間で、子どもの成長記録の情報を交換する場であり、子どもの成長を共に喜び合えるための子育て支援である」という定義がより明確となった。

また、「温かみのあるコミュニケーションの場」というコードに示される通り、言葉のやり取りを通して、互いの良好な関係性のもとでコミュニケーションを深めている様子も窺えた。このことから、新たな知見として、連絡帳という場面においては、感情的なやりとりを通じて互いのコミュニケーションが生まれ、共通の目的である「子育て」において、協同できる場が形成されることが明確となった。これは、支援される側とする側の関係を超越、双方が情報を交換し合い、対等な立場で関わり合う関係が見えてきたという点である。また、保育者と保護者が連携し、支援という枠を超越、子どもの成長を共に喜び合える子育て支援の形が示唆された。具体的には、手書きの絵や文字とICTの活用など、情報共有がしやすい環境を整えることで、双方の信頼関係と連携がより深まる可能性があると考えられる。

手書きの連絡帳では、保護者の文字から心情を読み取ることで支援につながる事が明らかになった。保育現場において保護者との子どもの情報共有は、子どもの育ちを共に支える信頼関係を構築する上で重要となる。連絡帳は、子どもの食事や排泄状況および家庭や園での様子を日常的に共有するとともに、子育て支援においても重要な機能を果たしている（丸目、2018；須永、2022）。このような食事や排泄、体調などの情報や子どもの姿の保護者との日常的な共有は、子育て支援や子どもの育ちにおいて重要な役割を果たしている一方で、保育者の業務負担の大きさについても指摘されている。

一方、ICTツールの連絡帳を活用することで、仕事の休憩時間や移動中など、自分の都合の良い時間や場所で子どもの様子や園からの連絡事項を確認することができる。また、時間や場所を選ばずに情報共有を可能にする機能があることから、保護者間での情報共有が円滑になり、子育てへの参加意識の向上に繋がると推測される。特に、家族との情報共有が容易になったことで、祖父母や父親の子育ての参加促進にも効果が予想される。さらに、ICTツールの連絡帳は、「簡単なコミュニケーションが取りやすい」という事務的な情報共有が予測される。分析結果として、ICTツールの活用は、多くの機能を活用することにより、利便性を感じられているが、満足度や効果、効率の理由として、「子どもの成長記録」「子どもの成長過程」「子どもの姿」というコードは、見当たらなかった。連絡帳の定義を改めると、本来の本質に欠け

ていることが考察される。ICTツールは、時・場所を選ばず閲覧可能であり、手書きの連絡帳のように手渡しという手間や時間等のある情報を共有したいときに手間もかからない。また、いつでも、どこでも、情報についてアクセスすることができるが、セキュリティ面に不安を持つ保育者もいたが、パスワードやアクセス権限を設ける等紛失や情報漏洩のリスクは低下すると考えられる。情報のセキュリティの機能の充実が求められる。

さらに、ICTに不慣れな保育者にとってはかえって不便に感じているようだった。ICTに慣れていない人でも利用できるようにする配慮が必要である。しかし、活用するには、保育者全員が最低限のリテラシーを備えている必要がある。綿貫（2021）の先行研究でもあるように、保育者を対象とした、ICTリテラシー向上のための研修制度を充実させる必要がある。効果的に導入できれば効率的な活用ができるのではないだろうか。

また、ICTツールの導入により、手書きのメリットが見直されるケースも出てきているため、ICTツールの活用に、さらに手書きのメリットである「イラスト機能」や「温かみのあるコミュニケーションの場を伝える工夫」を付加することで、保護者の満足度向上に繋がるのではないだろうか。ICTツールによる事務軽減としては、連絡帳をペーパーレス化として活用し、事務の軽減やコスト削減、業務効率の向上に繋がっていると考えられるが、「子どもの姿を共有する」ことは欠けてはならない。ICTツールの活用による業務負担の軽減があるならば、保育者に時間及び精神的なゆとりを生むため、子どもや保育者との関係構築といった保育の質の向上につながるという仮説に繋がるためには、手書きとICTツールの連絡帳は、それぞれ異なるメリットとデメリットを持つため、保育者は、それぞれの特性を理解し、両方を活かした使い方をしていくことが重要である。

一方で、システム導入にコストがかかることといった課題も予想される。連絡帳の管理や情報の管理が簡単にできるため、業務効率の向上につながるが、保育者が活用できなければ、効果があらわれない。

今後、手書きとICTツールとのそれぞれのメリットを活かしながら、保護者にとってより良い情報共有のあり方が求められる。また、手書きとICTの連絡帳の活用では、メリット・デメリットを正しく理解し、ICTに慣れていない人でも利用できる環境を整備して、取り組む必要がある。

【注】

1 ICTとは、(Information and Communications Technology) 情報通信技術とする。

【参考文献】

川合美奈・内田千春（2023）医療型重症心身障害児入所施設の保育士が認識する業務内容と関連する

感情—楽しさ・やりがい・大変・困難さに着目して—、保育学研究、61(2)、55-66.

経済産業省（2018）保育現場のICT化・自治体手続き等標準検討会の報告書。（参照2024-09-01）

金城悟・安見克夫・中田英雄（2011）保育職の大変さとやりがいに関する保育者の意識構造について：M-GTAによる分析の試み、東京成徳短期大学紀要、44、25-44.

黒須正明（2003）ユーザビリティテスト ユーザ中心のものづくりに向けて、共立出版.

丸目満弓（2018）乳児保育における保護者支援研究（1）：連絡帳の記述文字数及び保育士—保護者間の応答率の分析、大阪総合保育大学紀要、12、73-84.

水津幸恵ら（2024）保育現場とのICTを活用した情報共有における保護者の利用実態と意識—紙媒体との比較および家庭での子育ての変化に着目して—、三重大学教育学部研究紀要、75、87-94.

東京都福祉保健局（2019）東京都保育士実態調査報告書。（参照2024-09-01）

須永真理（2022）自己主張期の子どもをもつ保護者に対する連絡帳を用いた子育て支援に関する研究、保育学研究、60、69-80.

【参考文献】

橋本陽介（2015）保育者養成課程に在籍する学生の主観的記述に基づくSNSと連絡帳のユーザビリティの検討：就学前障害児支援でのICT活用の可能性、函館大谷短期大学紀要、31、21-25.

今井和子（2008）保育を変える記録の書き方評価のしかた、ひととなる書房.

柏女霊峰（2010）保育相談支援の原理、柏女霊峰・橋本真紀『増補版 保育者の保護者支援—保育相談支援の原理と技術』フレーベル館、102, 119.

剣持安里・山内紀幸（2005）保育者と保護者の連携—0歳児～2歳児の連絡帳のメッセージ分析を通して—、山梨学院短期大学研究紀要、26、43-53.

森大樹ら（2022）園務支援システム導入と運用方法の研究～アンケート分析～、大阪千代田短期大学紀要、51、49-59.

守巧ら（2020）保育所における子育て支援媒体としての『連絡帳』の活用をめぐって～保育士への実態調査より～、保育学研究、10、41-53.

中津功一朗（2021）幼児教育・保育現場へのICT導入の現状と課題、大阪城南女子短期大学研究紀要、55、85-98.

綿貫文野（2021）ICTを活用した連絡帳の実態に関する研究 日本保育学会 第75回大会ポスター発表.

綿貫文野・三宅美千代・酒井基宏（2022）保育現場における連絡帳の実態とその業務に対する保育者の意識調査 日本保育学会 第76回大会口頭発表.

綿貫文野（2023）保育現場におけるICTツールを活用した連絡帳の実態に関する研究、東京経営短期大学紀要、31、81-90.

Questionnaire Survey of Childcare Providers in Contact Books in Childcare Settings: Analysis of Handwritten and ICT Free-text Notes

Fumino Watanuki

Abstract

This study focused on contact book operations in childcare settings and investigated childcare providers' attitudes toward the use of handwritten and ICT tool contact books. The results showed that handwritten contact sheets "emphasized emotional connection" and served as a "place for communication with parents. It was also found that reading the emotional state of the parents' letters could lead to childcare support. In particular, handwritten contact sheets were seen as important for "sharing a record of the child's growth. On the other hand, ICT was found to contribute to efficiency, sharing visual information, and reducing administrative workload. In particular, the following conveniences were mentioned: "the ability to distribute the same content simultaneously," "the ability to reply with standardized text," "the use of functions that allow comparison with the nursery childcare guidelines," and "the attachment of photographs. Based on the above, we believe that creating an environment that facilitates information sharing, such as through the use of handwritten pictures and text and ICT, may deepen the relationship of trust and cooperation between the two parties. In the future, it will be necessary to develop an environment that takes advantage of both advantages and strengthen literacy education and support systems at the time of ICT introduction.

Keywords: childcare providers, parents, handwritten contact sheets, ICT contact sheets, childcare support